

# 令和 6 年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立紀北農芸高等学校 校長名： 長谷 忠志

## 目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

- 地域や小学校・中学校・特別支援学校・大学、農業関連機関等と連携し、広がりのある教育の構築に取り組み、生徒の活動成果を地域に還元するなど、紀北地域の農業教育の中心的な機能を果たす。
- 豊かな勤労観や職業観、社会性を身につけさせ、進路を自ら選択・決定する力を育むとともに、農業の担い手や関連産業で活躍できる人材を育成する。
- 農業教育を通じて、「生徒を支える学校」であるとともに、「自己の将来展望をしっかりと持つ生徒を育成する学校」として地域に貢献する。

## 学校評価の公表方法

- 学校ホームページ等によって公表する。
- 学校運営協議会、PTA 役員会等関係部署に提出する。

現状・進捗度

A	十分に達成している。（80%以上）
B	概ね達成している。（60%以上）
C	あまり十分でない。（40%以上）
D	不十分である。（40%未満）

## 自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（2月20日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	農業教育の充実	B	交流事業の活性化	異校種間交流や地域行事への参加により地域等と連携を図ることができたか。	A	かつらぎ町内の幼・小・中それぞれと交流を図ることができ、活性化することができた。	幼・小・中それぞれと交流を図れたことは良かったが、農林大学校との交流は希薄である。本校が苦手としているスマート農業の分野など農林大学校の取組を定期的に参観することで、農業の深い学びにつなげていきたい。ICTを農業と結びつけていくカリキュラム、学科横断的な学びも課題である。
			農業クラブ活動の活性化	農業に関する知識を深め、近畿ブロック大会や全国大会出場に向け技術を習得し、農業スキルの向上に努めることができたか。	B	全国農業クラブ平板測量競技大会では優秀賞を得られたものの、全体的には農業スキルの向上とまではいかなかった。	
			授業改善やコース制により生徒の興味関心を高める	授業内容や進度等の見直しに取り組んだか。	A	各学科カリキュラム編成の見直しを進めている。	
2	学力向上と進路意識の高揚	B	ICTの積極的活用	1人1台タブレット端末を利用してより深い学びにつなげることができたか。	A	朝学で1人1台タブレットを利用する等、使用頻度は高まってきた。	1人1台タブレットの使用頻度は高まってきたものの、使用状況は教科によってばらつきがある。ICTを活用した研究授業を開催し、深い学びにつなげていくことが課題である。また、キャリアパスポートのデジタル化など、キャリア教育にも活用していきたい。
			授業改善の推進	研究授業、参観授業を計画し、より良い授業を行うため、意見を交換する場を持つことができたか。	B	学期に一度は研究授業を行い、研究協議で交流を図ることができた。	
			キャリア教育の充実	将来の進路について考える機会を設け振り返り、職業観を向上させることができたか。	A	進路ガイダンスを行い、職業について学び、将来について考えさせることができた。	
3	豊かな人間性の育成	A	社会性、規範意識を向上させる	「あいさつ・身だしなみ・思いやりと感謝」を常に意識し、社会に出たときに必要となるスキルを習得させることができたか。	B	制服変更の検討を行った。校則の見直しを図り、時代に即した指導を行っていく。	生徒の個性が多様化してきている。お互いの意見が合わないときに他者の意見を傾聴する姿勢や習慣が必要である。高校に入学した段階で集団生活を送るうえで必要な「あいさつ・身だしなみ・思いやりと感謝」について意識の向上を図り、相手の立場に立って考えることを指導していく。
			人権LHRやいじめについてのアンケートを実施	アンケート結果を適切に指導に生かし、人権意識を育むことができたか。	B	他者を傷ける言動が少なからず存在する。	
			通級指導や特別活動等により、コミュニケーション能力や自己肯定感を育む	教職員が常にカウンセリングマインドを意識しているか。また情報共有が出来ているか。	A	様々な生徒への対応を丁寧に行うことができた。	

## 学校関係者評価（2月20日実施）

- 3年生に起業している生徒がいる。和歌山県としても若い世代の人たちが起業することを支援している。このような生徒をもっとPRすることができないか。学校は起業のマインドを教える。積極的に生徒が自ら発信していくことが重要。（学校運営協議会）
- 農村という視点は重要である。田舎暮らしをしたいという若者はいても、農業となるとハードルが上がる。農村計画は若い人たちが農家に交渉に行くと受け入れられやすい。農業を一つのきっかけとして街作りに生かすことはできないか。（学校運営協議会）
- 卒業後すぐに就農しなくても、農業高校の生徒は将来的に農業に戻ってくる可能性が出てくる。農業の基礎基本をしっかりと教育しておくことが大切。（学校運営協議会）
- インスタグラムで学校の様子を拝見している。見てわかりやすい形で情報発信されている。マルシェの予告なども発信できれば良いと思います。（保護者）
- クラブ活動に関しては部の数が少ないので、生徒数が増えて、クラブ活動が活性化されると良いと思います。（保護者）
- 生徒募集用のポスターを作成して和歌山市内の中学校などに貼ってもらってはいかがでしょうか。中学生の目に触れるところでのPRが必要では。（保護者）
- 農業を学びたいと希望して入学してくる生徒が少なくなっている。教師が教えたいと考えていることの4割～5割レベルでしか教えることができていない。本校を卒業し、就農することが難しい。農業のみで生計を立てていけるとは言い切れないところに難しさがある。農業人材を育てるという意味では達成率は低い。（教員）
- タブレットの学習を増やして欲しいです。（生徒）
- 少人数授業だから発言しやすいです。（生徒）
- 就職試験の問題を出してくれるのが良い。（生徒）
- 実験の説明が丁寧で良いです。（生徒）

